



南山大学大学院 人間文化研究科

2027

キリスト教思想専攻（博士前期課程）

宗教思想専攻（博士後期課程）

人類学専攻（博士前期課程・博士後期課程）

教育ファシリテーション専攻（修士課程）

言語科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）

NANZAN
UNIVERSITY

人間文化研究科

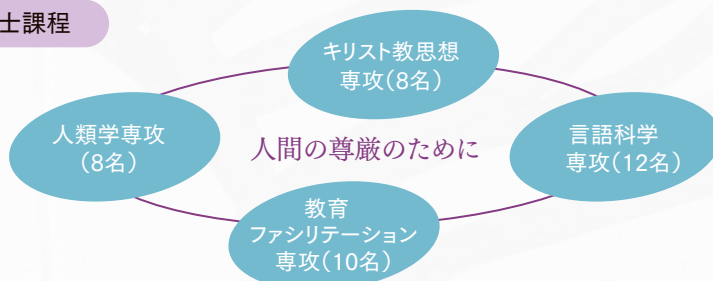
人間性の本質的な理解を追求します

21世紀を迎え、社会が一段と複雑化するとともに、旧来の学問の体系では必ずしも適切に扱い得ないような数多くの問題が出現してきました。その具体的事例としては、遺伝子操作問題、いじめや不登校、急速な進化を続けるAIへの対応、民族・宗教・言語問題などが挙げられます。これらは、人間や社会、文化の多様性を理解しつつ、人間文化研究の原点に立ち戻り、「人間性」の本質的な理解を目指すことによって、初めて接近への糸口をつかむことのできる課題なのではないでしょうか。

社会の問題を解決し、地域・世界の発展に寄与する人材の養成

本研究科には、「人間性」に関する総合的かつ高度な教育研究を目指す、4つの専攻があります。それぞれの専攻では、(1)人間の尊厳を保障する人間観の確立、(2)文化・社会の通時的变化と共時的多様性の体系的理解に基づく文化論の構築、(3)自己実現を可能にする人間形成論の探究、(4)言語研究を基礎とした人間理解への貢献が、中心的な課題となります。この学問的根幹を基礎として、複雑な現代社会が抱える諸問題に対して根源的な解決を探り、地域のみならず広く世界の発展に寄与することのできる高度専門職業人や研究者を養成します。

博士前期・修士課程



特色あるカリキュラム

1 研究科共通科目 (4単位) ※1

人間と文化の研究についての基礎知識を学ぶ「キリスト教の人間論」、「人間文化と社会」、「人間関係論」、「人間と言語」、「文化資源学研究」

※1：教育ファシリテーション専攻は2単位

※人間文化研究科博士前期・修士課程では、名古屋大学大学院人文学研究科と単位互換の協定を結び、実施しています。

2 専門科目 (18単位) ※2

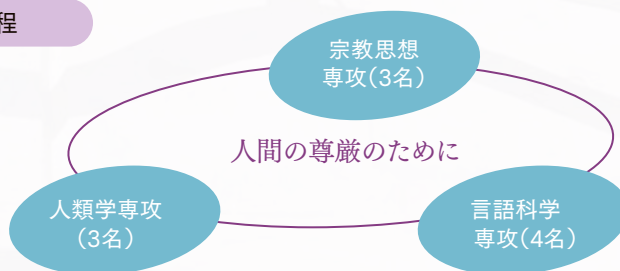
各専攻の研究指導科目を基礎的側面および隣接的側面から支援し、展開・促進する科目(詳細については各専攻のページをご覧ください。)

※2：教育ファシリテーション専攻は20単位

3 研究指導科目 (8単位)

第1年次には、基本的なリサーチスキルの修得を目指し、第2年次には、修士論文あるいは特定課題研究の指導を行います。

博士後期課程



1 専門科目 (6単位)

広い視野をもって独創的な研究を遂行する能力を身に付けることを目的とした高度な専門科目(詳細については各専攻のページをご覧ください。)

2 研究指導科目 (12単位)

第1年次、第2年次は、研究論文を執筆、公表することを目的とし、第3年次には、博士論文の指導を行います。

入学時期を春と秋から選択することが可能です。

4月だけでなく9月に入学を希望する方にも対応します。ご自身のスケジュールによって、より柔軟な研究計画を立てることができます。専攻や課程により対応する入試種別や入試日程が異なる場合がありますので、詳細については入試要項で確認してください。

※社会人入学審査により入学された社会人学生(博士前期・修士課程)のうち、あらかじめ2か年を超えて履修することを希望する人に対し、3年目の履修年度に授業料および施設設備費相当額を奨学金として給付する制度があります。

キリスト教思想専攻 (博士前期課程)

専攻の概略

本専攻では、人間の本质を理解する鍵の一つをキリスト教思想に求めつつ、その根幹を成す神学、哲学、宗教学という密接に関連した3つの学問領域を柱として研究します。特に、本学の教育理念に基づく「人間の尊厳のために」というモットーが、キリスト教的人間観に拠るものであることを踏まえ、現代社会が模索している人間観とその尊厳の根拠を探究します。これらの研究と教育によって、本専攻では、教員、聖職者および研究者となりうる人材を養成することを目指します。



専攻の特色

キリスト教思想専攻の①神学領域では、キリスト教の正典である聖書を研究する聖書神学とその教義を研究する組織神学、さらに、その神学の立場から他宗教を研究する諸宗教の神学があります。次に、②哲学領域では、古代・中世・近世/現代哲学を研究する諸科目とキリスト教を思想・文化的側面から研究する諸科目があります。そして、③宗教学領域では、キリスト教を含む宗教が人間にとって本質的価値を有するという立場から、宗教とその歴史を多角的に研究する諸科目があります。これら3領域の総合的研究による人間の本质の探究を通して、現代社会が模索している人間観とその尊厳の根拠を提示します。

専門科目一覧

専門外国語科目	古典語学(ラテン語)A・B/古典語学(ギリシャ語)A・B/古典語学(ヘブライ語)A・B/現代語講読A・B
神学領域科目	聖書神学概論/組織神学概論/諸宗教の神学概論/旧約聖書研究/新約聖書研究/組織神学研究/諸宗教の神学研究/倫理神学研究/実践神学研究
哲学領域科目	教父思想研究/キリスト教精神史研究/キリスト教文化研究/古代哲学研究/中世哲学研究/近世・現代哲学研究
宗教学領域科目	宗教史研究/宗教学研究/宗教社会学研究/宗教心理学研究/比較宗教学研究/宗教哲学研究
研究指導科目	研究指導 I A～II D

期待される進路

- 教育者(高等学校・中学校教員等)、研究者(博士後期課程進学者)
- 社会福祉の活動団体(官・公・民)
- 聖職者、修道者、信徒奉仕者等

宗教思想専攻 (博士後期課程)

専攻の概略

本専攻は前期課程であるキリスト教思想専攻を基礎に、より幅広く宗教現象を学問的に捉えることを目的とします。キリスト教思想専攻と同じように、神学・哲学・宗教学という学問領域を柱としますが、現代世界に即応した学際的な研究を進めることを目指し、国際社会に通用する研究者を養成することがねらいです。

専攻の特色

学生が神学、哲学、宗教学のいずれかの領域で十分な知識と研究方法を身に付けていることを前提にして、テキストの厳密な読解といった伝統的な学問を継承しつつ、さらに独創的な業績を生み出せるよう、そして学位論文を作成できるよう研究指導をします。また留学生を積極的に受け容れ、国際性豊かな指導スタッフを含め、国際的な研究環境を提供します。そうした環境と適切な指導によって、学生は、キリスト教精神にのっとり、学問伝統を踏まえつつも、現代世界の思想状況を的確に把握して、新たな研究方法を開拓し、ここ名古屋の南山大学から国際社会に向けて、宗教思想の分野でリードできる人間となってゆきます。

専門科目一覧

専門科目	宗教思想特殊研究(神学)A/宗教思想特殊研究(神学)B/宗教思想特殊研究(哲学)A/宗教思想特殊研究(哲学)B/宗教思想特殊研究(宗教学)A/宗教思想特殊研究(宗教学)B
研究指導科目	研究指導 I A～III D

期待される進路

- 教育・研究者(大学・研究所・高等学校教員等)
- 社会福祉の活動団体(官・公・民)
- 聖職者、修道者、信徒奉仕者等



人類学専攻 (博士前期課程)

専攻の概略

本専攻は、人類が長い歴史の中で創り上げてきた文化・文明を総合的に理解することを目指し、文化人類学と考古学を二つの柱としております。過去や現在の世界で起きた／起きている具体的な現象や問題を現地の視点から発見し、なぜ、どのようにそれが起きたのかを様々な観点から解き明かし、将来に向けた展望を見出していきます。このような具体的な研究実践を通して、日本・世界各地の文化・文明を専門的に扱う優れた人材を養成すること、これが本専攻の目的です。



専攻の特色

文化人類学と考古学の二つの専門領域を柱としているのが人類学専攻の特徴です。学生は入学時にいずれかを主領域として選択しますが、人間文化の理解には双方が不可分な関係にあるという考えから、もう一方を副領域として履修できる副領域制度を設けております。また、学生が自身の研究の進捗状況を発表する機会が与えられる合同研究会が年に数回設けられ、修士論文作成まで教員全員でサポートします。

専門科目一覧

研究基礎科目	人類進化史研究／情報処理研究
文化人類学領域科目	人類学演習(文化人類学)／人類学理論研究／民族誌学研究／歴史人類学研究(グローバル社会論)／歴史人類学研究(ナショナリズム論)／社会人類学研究(宗教人類学)／社会人類学研究(民族芸術論)／人類学応用論研究(医療人類学)／人類学応用論研究(国際協力論)
考古学領域科目	人類学演習(考古学)／考古学理論研究／考古学方法論研究／地域考古学研究(日本列島先史時代)／地域考古学研究(日本列島歴史時代)／地域考古学研究(朝鮮半島・東アジア)／地域考古学研究(中国大陸先史時代)／地域考古学研究(中国大陸歴史時代)／地域考古学研究(環太平洋)／環境考古学研究
研究指導科目	研究指導 I A～IID

期待される進路

- 文化人類学や考古学など専門分野の研究者(例えば、大学教員、民間企業の研究所研究員)、博物館学芸員、文化行政担当者(文化庁、埋蔵文化財センターのスタッフ、市町村の教育委員会において文化財の保存や維持に従事する人など)、国際的文化事業従事者(ユネスコ関連国際機関のスタッフ、世界遺産の保存等に従事する人、NGOやNPOなどのスタッフ)、高等学校教員など。

人類学専攻 (博士後期課程)

専攻の概略

本専攻博士後期課程は、人間社会の根幹をなす文化や歴史に対する深い洞察力を持ち、フィールドワークや発掘調査などによって得られた資料やデータを整理・分析し、先行研究を批判的に評価しながら研究を遂行する能力を有する、優れた人材を育成することを目的とします。既に文化人類学や考古学の視点や研究手法を修得した者を対象として、異なる文明・文化との比較によって調査地に対する理解を深め、更に専門性を高めます。

専攻の特色

博士後期課程では、博士前期課程で修得した研究領域に関する学識を土台に、高度専門職業人を養成します。個々の学生に対応した履修パターンを設定し、社会人(国公立私立教員、研究所研究員、博物館・美術館学芸員、埋蔵文化財主事・専門員など)のリカレント教育と学位取得を可能にするプログラムを提供します。

本課程の学生は、フィールドワークや発掘調査などで得られた資料やデータを整理・分析し、先行研究を批判的に評価しながら論文を仕上げていきます。また、本専攻は南山大学において長い歴史を持つ人類学研究所や人類学博物館と連携する機会も多く、学生は研究者の営みに身近に接しながら専門性を高めていくことができます。

専門科目一覧

文化人類学領域科目	人類学特殊研究(文化人類学)A／人類学特殊研究(文化人類学)B
考古学領域科目	人類学特殊研究(考古学)A／人類学特殊研究(考古学)B
地域研究科目	人類学特殊研究(地域研究)A／人類学特殊研究(地域研究)B
研究科指導科目	研究指導 I A～III D

期待される進路

- 文化人類学や考古学など専門分野の研究者(例えば、大学教員、研究機関研究員)、博物館学芸員、文化行政担当者(文化庁、埋蔵文化財センターのスタッフ、市町村の教育委員会において文化財の保存や維持に従事する人など)、国際的文化事業従事者(ユネスコ関連国際機関のスタッフ、世界遺産の保存等に従事する人、NGOやNPOなどのスタッフ)、高等学校教員など。

教育ファシリテーション専攻（修士課程）

専攻の概略

教育ファシリテーションとは、学校をはじめとする多様な教育現場において、学ぶ者がその主体性を発揮できるように、様々なスキルを用いて支援することです。本専攻は、教育プログラムや学習環境の整備からクラスや小集団単位での学習の促進まで、それぞれのレベルでの活動について、集団が持っている力を引き出せるファシリテーターとしての資質養成を目指します。なお、『人間関係の学び方 ―人間性豊かな関係を育む「ラボラトリー方式の体験学習」の理論と実践―』土屋耕治・楠本和彦・中村和彦(編) ナカニシヤ出版 2024. は、本専攻の概略を知る上で適書ですので、ご一読ください。

専攻の特色

教育ファシリテーション専攻は、多様な教育現場で実践を行っている社会人学生、もしくは将来的にそのような場で活躍することを希望する学生とともに、組織や集団が本来持っている力を引き出すことのできるファシリテーションについて考え、探究します。授業は、夜間および週末開講体制を取り、また人間と人間関係に関わる基礎的研究から応用実践まで幅広いニーズに応えます。中でも、ラボラトリー方式の体験学習に関する科目群は、全国的にも希有な存在です。なお、履修科目の要件を満たせば「学校心理士」の受験資格を得ることができます。

専門科目一覧

研究基礎科目	人間性教育に根ざした教育方法の修得を目指す 教育ファシリテーション論／教育ファシリテーション評価研究
体験学習領域科目	様々な教育領域における体験学習プログラムの立案・実行能力を育成する 体験学習ファシリテーション基礎研究／体験学習ファシリテーション応用研究／グループ・アプローチ研究／ファシリテーション研究A／ファシリテーション研究B／組織開発研究
学校教育領域科目	教育活動を組織し、援助できる能力を育成する 教育心理学研究／発達心理学研究／臨床心理学研究／障害児教育実践研究／教育臨床研究／学校心理学研究
関連科目	上記2領域のいずれとも関連が深く、学習者の関心に応じて習得する科目 学校カウンセリング実践研究／教育社会学研究／キャリア・ガイダンス研究／カリキュラム研究／心理アセスメント実践研究
研究指導科目	研究指導 IA～IID

本専攻がファシリテートする学生の力

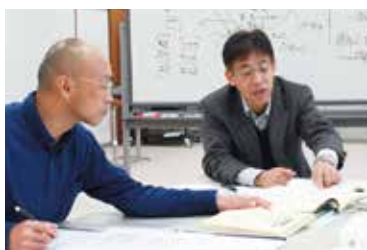
- 学習者を多面的に理解する能力
- 学びのための環境づくり能力
- 学習者への効果的な介入（働きかけ）力

教育訓練給付制度（2024年4月～2027年3月）

- 厚生労働大臣指定教育訓練講座

本専攻では一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者（在職者）または一般の保険者であった方（離職者）が教育訓練講座を修了した場合、ハローワークより教育訓練給付金が支給されます。

詳しくは南山大学教務課または最寄りのハローワークへお問い合わせください。



言語科学専攻 (博士前期課程)

専攻の概略

本専攻博士前期課程は、人間性の本質に迫る手立てとしての言語学、グローバル化に貢献する国内外の人材の育成に不可欠な外国語・第二言語としての日本語および英語の教育を三本の柱として新しい大学院教育を目指すべく2004年度に設置されました。言語学領域では、文法理論や言語・方言比較研究論を研究することによって一般言語理論の構築に貢献する人材を養成します。日本語教育領域および英語教育領域では、それぞれの語学教育に特化した日本語教育研究、英語教育研究等の科目とともに、言語運用能力論(日本語・英語)、第二言語習得研究、コミュニケーション教育研究などの科目を開講し、国内外で語学教員として活躍する人材を育成します。



専攻の特色

言語を取り巻く多様な領域を横断的に研究できるのが、本専攻の特色です。また、高度専門職業人養成という社会のニーズに応えるため、日本語教育実習、言語運用能力およびコミュニケーション能力を涵養する科目群、副領域制度(例えば、言語学を主領域とする学生が一定の履修条件を満たせば、日本語教育や英語教育を副領域とする副領域履修証明書の発行が受けられる)を提供しています。さらに、日本語と母語との比較研究や修了後日本語教育に携わることを志す留学生を積極的に受け入れます。

専門科目一覧

専攻基礎科目	言語運用能力論(日本語)／言語運用能力論(英語)／言語学概論A・B／日本語教育概論Ⅰ～Ⅳ
専攻専門科目	統語論概論／意味論概論／音韻論概論／心理言語学概論／言語理論研究A・B／日本語文法論A・B／英語文法論A・B／コミュニケーション論／異文化コミュニケーション論／第二言語習得概論／言語教育工学／日本語教育研究A・B／英語教育研究A・B／コミュニケーション教育研究A・B／言語習得論研究A・B
研究指導科目	研究指導Ⅰ～Ⅵ／言語科学課題演習A・B

期待される進路

- 言語学、日本語教育、英語教育といった専門分野の研究者(例えば、大学教員)、国内外の中等教育機関や高等教育機関で教育に携わる日本語教師や英語教師など。

言語科学専攻 (博士後期課程)

専攻の概略

本専攻博士後期課程は、人間性の重要な一部をなす言語に見られる普遍性と多様性を研究の対象とし、人間の本質的理解と人間の尊厳の普遍的実現に貢献する人材を育成することを目的としています。本学は、長年に渡って文法理論、言語習得論、外国語教育学、コミュニケーション論の諸領域において、指導的な役割を果たしてきました。この伝統を受け継ぎ、言語理論と言語習得論を二つの柱として、人間言語の普遍的な理論の構築と、日本語・英語を始めとする第二言語の習得理論の構築、融合を目指します。

専攻の特色

本専攻博士後期課程では、言語研究と専門的職業としての言語教育の双方において優れた人材を養成します。修了生の多くが言語の理論研究または応用研究を行うと同時に日本語教育または英語教育を実践する職業に就くため、博士前期課程で開講されている多様な日本語教育・英語教育関係の科目も履修できるようカリキュラムを組んでいます。また、第二言語である日本語と第一言語である母語の高度な比較研究を志したり、日本語教育で指導的な役割を果たそうとする留学生を積極的に受け入れます。

専門科目一覧

専門科目	言語科学特殊研究(言語理論)A・B／言語科学特殊研究(言語表現論)A・B／言語科学特殊研究(言語習得論)A・B
研究指導科目	研究指導Ⅰ～Ⅸ／言語科学課題演習A～C

期待される進路

- 言語研究・言語習得研究の分野において、国際的に活躍しうる研究者。
- 本国(日本以外)における言語研究・言語習得研究において、中核的な役割を果たしうる研究者。
- 国内外の教育機関や研究機関において、指導的な役割を果たす日本語教育者や英語教育者。



研究者紹介

前：博士前期課程

後：博士後期課程

キリスト教思想専攻・宗教思想専攻

< 研究指導教員 >

教授 FONGARO, Enrico

前

【専攻分野：哲学】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 インターカルチャー 哲学からみた日本哲学
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 西田幾多郎の哲学における時間論
- ◆主な著作：『西田幾多郎全集イタリア語版』翻訳及び監修(2017年～)

教授 加藤 久美子 Kumiko Kato

前

【専攻分野：ヘブライ語聖書、旧約学、宗教学・宗教史学】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 初期ユダヤ教における教訓とアフォリズム
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 『箴言』における女性イメージ
- ◆主な著作：『文脈の中のアフォリズム 箴言10-12章の構成の研究』(単著)日本キリスト教団出版局(2024年)

教授 KUCICKI, Janusz

前後

【専攻分野：神学、新約聖書学】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 新約聖書の終末論
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 パウロの伝記
- ◆主な著作：『The Function of the Speeches in the Acts of the Apostles: A Key to Interpretation of Luke's Use of Speeches in Acts』(単著)Brill, 2018.

教授 守屋 友江 Tomoe Moriya

前後

【専攻分野：宗教学、宗教思想史】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 日本宗教とその近代における展開
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 トランスローカルな視点からの近代仏教と經典翻訳に関する研究
- ◆主な著作：『越境する宗教史』上(共著)リオン(2020年)

教授 奥田 太郎 Taro Okuda

前後

【専攻分野：哲学、倫理学、応用倫理学】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 倫理学の諸問題に関する多層的考察
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 現代の諸問題に対する応用倫理学的研究
- ◆主な著作：『倫理学という構え』(単著)ナカニシヤ出版(2012年)

准教授 RAJCANI, Jakub

前

【専攻分野：キリスト教倫理、道徳神学、生命倫理、社会倫理】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 ロマーノ・グアルディーニの倫理思想
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 人間の自己同一性と主体性の研究
- ◆主な著作：『Identità e agire morale: Riflessioni sull'esistenza cristiana alla luce del pensiero di Romano Guardini』(単著), Aracne editrice(Roma), 2016.

< 講義担当者 >

教授 井上 淳 Jun Inoue

前

【専攻分野：西洋中世哲学およびキリスト教神学】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 トマス・アクィナスの死生観の研究
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 トマス・アクィナス『定期討論集 デ・アニマ』の翻訳、註、解説
- ◆主な著作：『On the Development of St. Thomas Aquinas's Theory of the Knowledge of the Separated Human Soul』(単著, 2000年, UMI Dissertation Services, Bell&Howell Company).

准教授 DANCAR, Aleksander

前

【専攻分野：基礎神学、組織神学】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 コンテクスチュアル神学
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 現象学的アプローチによる形而上的・神学的人類学
- ◆主な著作：『Hominis Dignitati: An Interdisciplinary Approach』(共著), Logos Publications, 2022.

准教授 南 翔一朗 Shoichiro Minami

前

【専攻分野：宗教哲学】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 宗教と倫理の問題
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 カントの宗教哲学(道徳神学・理性宗教)
- ◆主な著作：『キリスト教神学命題集—ユスティヌスからJ.コンまで』(共著)日本キリスト教団出版局(2022年)

教授 HERA, Marianus Pale

前

【専攻分野：新約聖書学、聖書神学】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 ヨハネ福音書のキリスト論
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 聖書読解への物語批評・読者反応批評の適用
- ◆主な著作：『Christology and Discipleship in John 17』(単著), Mohr Siebeck, 2013.

教授 金 承哲 KIM Seung Chul

前後

【専攻分野：組織神学、生命倫理学】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 宗教と科学の対話
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 諸宗教対話のための神学的パラダイムの構築
- ◆主な著作：『神と遺伝子: 遺伝子工学時代におけるキリスト教』(単著)教文館(2009年)

教授 松根 伸治 Shinji Matsune

前後

【専攻分野：中世哲学史】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 西洋中世の倫理思想
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 トマスの倫理思想、徳に関する中世の思想
- ◆主な著作：『西洋中世の正義論』(共著)晃洋書房(2020年)

教授 西脇 良 Ryo Nishiwaki

前

【専攻分野：発達心理学】

(後) 研究指導補助)

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 宗教性発達モデルの構築
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 子どもを取り巻く宗教的環境に関する調査研究
- ◆主な著作：『日本人の宗教的自然観』(単著), ミネルヴァ書房(2004年)

教授 坂下 浩司 Koji Sakashita

前後

【専攻分野：西洋古代哲学史、応用倫理(工学倫理)】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 アリストテレス哲学の体系的研究
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 アリストテレスの形而上学思想の原典的研究
- ◆主な著作：『アリストテレスの形而上学—自然学と倫理学の基礎』(単著)岩波書店(2002年)

教授 SOUSA, Domingos

前

【専攻分野：組織神学、仏教学】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 比較思想
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 ケルケゴールと親鸞の思想比較
- ◆主な著作：『親鸞とケルケゴールにおける「信心」と「信仰」』(単著), ミネルヴァ書房(2015年)

准教授 袴田 渉 Wataru Hakamada

前

【専攻分野：古代キリスト教史、教父学、宗教学】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 東方教父思想
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 ディオニュシオス・アレオパギテースの神化論
- ◆主な著作：『テオオシス 東方・西方教会における人間神化思想の伝統』(共著)教友社(2018年)

准教授 岡崎 隆哲 Takaaki Okazaki

前

【専攻分野：古代教父思想】

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 アウグスティヌスの探求論および人間論
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 アウグスティヌスの『告白』と『詩編注解』の関係性について
- ◆主な著作：『アウグスティヌスにおけるキリスト者の戦い—恩恵と自由意志をめぐる一考察—』(単著), 『日本の神学』日本基督教学会

研究者紹介

前：博士前期課程
後：博士後期課程

人類学専攻

< 研究指導教員 >

教授 藤川 美代子 Miyoko Fujikawa

前

[専攻分野：文化人類学]

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 海に生きる人々が経験した近代的状況に関する人類学的研究
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 東南中国の船上生活者の暮らしとアイデンティティをめぐる人類学的研究、海洋動植物の捕獲と養殖をめぐる文化人類学的研究
- ◆主な著作：『水上に住まう—中国福建・連家船漁民の民族誌』（単著）風響社（2017年）、『定住本位型社会で船に住まいつづける—国家による複数の管理システムを生きる中国福建南部の連家船漁民』（『年報人類学研究』第10号（2020年））

教授 石原 美奈子 Minako Ishihara

前後

[専攻分野：文化人類学]

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 北東アフリカにおける宗教と社会変容
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 エチオピアのムスリム聖者と精霊憑依に関する人類学的研究
- ◆主な著作：『愛と共生のイスラーム—現代エチオピアのスーフイズムと聖者崇拝』（編著）春風社（2021年）、『現代エチオピアの女たち—社会変化とジェンダーをめぐる民族誌』（編著）明石書店（2017年）、『せめぎあう宗教と国家—エチオピア 神々の相克と共生』（編著）風響社（2014年）

教授 黒澤 浩 Hiroshi Kurosawa

前

[専攻分野：考古学・博物館学]

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 接触領域における物質文化の変容に関する考古学的研究、博物館をめぐる関係論的研究の構築
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 稲作開始の土器の変容、歴史・異文化の展示をめぐる問題
- ◆主な著作：『岡島遺跡の所謂「銅鐸形土製品」について—銅鐸形土製品の認定—』（単著）『三河考古』第30号（2020年）、『博物館展示論』（編著）講談社（2014年）、『博物館教育論』（編著）講談社（2015年）

教授 宮沢 千尋 Chihiro Miyazawa

前後

[専攻分野：文化人類学]

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 前近代ベトナム女性の財産権の歴史人類学的研究、近代日越関係
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 フランス植民地時代の知識人ファミ・クインと『南風雑誌』の研究、フランス植民地時代のベトナム女性知識人の研究
- ◆主な著作：『西川寛生「戦時ベトナム日記」1940年9月～1945年9月』（共編）風響社（2023年）、『Weaving Women's Spheres in Vietnam-The Agency of Women in Family, Religion, and Community.』（共著）Brill（2016年）

教授 上峯 篤史 Atsushi Uemine

前後

[専攻分野：考古学・文化財科学]

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 東アジアの人類移動史から見る日本列島先史文化の起源と変遷
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 日本と東アジアの旧石器文化研究、縄文・弥生時代の石器研究、新しい石器研究法の開発
- ◆主な著作：『縄文・弥生時代の石器研究の技術論的転回』（単著）雄山閣（2012年）、『縄文石器：その視点と方法』（単著）京都大学学術出版会（2018年）

教授 吉田 竹也 Takeya Yoshida

前後

[専攻分野：文化人類学]

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 バリ宗教の人類学的研究、バリ島と沖縄の観光地の人類学的研究
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 バリ宗教と人類学的バリ研究の相互作用に関する研究
- ◆主な著作：『バリ宗教と人類学—解釈学的認識の冒険』（単著）風媒社（2005年）『反楽園観光論—バリと沖縄の島嶼をめぐるメモワール』（単著）樹林舎（2013年）『人間・異文化・現代社会の探求—人類文化学ケースブック』（単著）樹林舎（2018年）『神の島楽園バリ—文化人類学ケースブック』（単著）樹林舎（2021年）

教授 福本 拓 Taku Fukumoto

前後

[専攻分野：人文地理学、多文化共生論]

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 国際人口移動の観点からみた地域の社会包摂と持続的発展の分析
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 日本をめぐる外国人労働者の国際・国内移動と地域社会との関係
- ◆主な著作：『大阪のエスニック・バイタリティー—近現代・在日朝鮮人の社会地理—』（単著）京都大学学術出版会（2022年）、Diversity of Urban Inclusivity: Gentrification in Advanced City-Regions（共編）Springer（2023年）

教授 石川 岳彦 Takehiko Ishikawa

前後

[専攻分野：中国考古学・東洋史]

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 中国大陸とその周辺地域の新石器時代から鉄器時代の研究
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 中国春秋戦国時代から秦漢時代の考古学的研究
- ◆主な著作：『春秋戦国時代 燕国の考古学』（単著）雄山閣（2017年）『新報告遺跡からみた春秋戦国時代燕国の遼寧地域への拡大』（『中国考古学論叢—古東アジア社会への多角的アプローチ—』（単著）同成社（2021年）『考古遺跡・遺物からみた遼東郡 遼陽・瀋陽地域の後漢・魏・晋墓と副葬土器の基礎編年』（単著）『国立歴史民俗博物館研究報告』第151集（2009年）

教授 宮脇 千絵 Chie Miyawaki

前

[専攻分野：文化人類学]

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 装いに関する人類学的研究
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 中国の民族衣装に関する研究、中国少数民族女性のライフコースに関する研究
- ◆主な著作：『装いの民族誌—中国雲南省モン「民族衣装」をめぐる実践』（単著）風響社（2017年）、Fashionable Traditions: Asian Handmade Textiles in Motion.（共著）Lexington Books（2020年）

教授 中尾 央 Hisashi Nakao

前

[専攻分野：人間進化学]

（後 研究指導補助）

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 更新世以降におけるさまざまな人間行動や文化の進化
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 人間進化における戦争の進化
- ◆主な著作：Violence in the prehistoric period of Japan: the spatiotemporal pattern of skeletal evidence for violence in the Jomon period.（共著）Biology Letters, 12: 20160028,（2016年）、『文化進化の考古学』（共著）勁草書房（2017年）

教授 渡部 森哉 Shinya Watanabe

前後

[専攻分野：考古学・文化人類学]

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 アメリカ大陸における国家社会と非国家社会の比較研究
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 中央アンデスにおけるワリ期の社会動態
- ◆主な著作：『インカ帝国の成立』（単著）春風社（2010年）『Estructura en los Andes antiguos』（単著）Shumpusha（2013年）『インカ帝国 歴史と構造』（単著）中央公論新社（2024年）

< 講義担当者 >

教授 永井 英治 Eiji Nagai

前

[専攻分野：アーカイブズ学]

- ◆研究テーマ：〔長期研究〕 室町幕府訴訟制度の研究、大学アーカイブスの理念と活用
- ◆研究テーマ：〔短期研究〕 鎌倉末～室町期の幕府裁判と地域社会、学術史としての大学史
- ◆主な著作：『学会アーカイブスという課題』（単著）『名古屋大学大学文書資料室紀要』15号（2007年）、『南北朝～室町期の権力と紛争解決』（単著）『歴史学研究』846号（2008年）



修：修士課程

教育ファシリテーション専攻

< 研究指導教員 >

教授 加藤 隆雄 Takao Kato

修

[専攻分野：教育社会学、社会学]

- ◆研究テーマ：[長期研究] 文化・社会化・社会秩序
- ◆研究テーマ：[短期研究] 子ども・青年・女性文化の研究
- ◆主な著作：『ポストモダン論と生政治論』（単著）教育社会学事典、丸善出版（2018年）
「マイクロマクロ問題を組み直すープリュノ・ラトゥールとANTー」（単著）アカデミア 人文・自然科学編第22号、南山大学（2021年）

教授 楠本 和彦 Kazuhiko Kusumoto

修

[専攻分野：臨床心理学]

- ◆研究テーマ：[長期研究] グループアプローチ、箱庭療法
- ◆研究テーマ：[短期研究] 青年期、成人期における心理臨床的活動
- ◆主な著作：『箱庭制作者の主観的体験に関する単一事例の質的研究』（単著）、箱庭療法研究、日本箱庭療法学会、第25巻3号、2013

教授 中西 美和 Miwa Nakanishi

修

[専攻分野：臨床心理学]

- ◆研究テーマ：[長期研究] ヒューマニスティック・グループアプローチの実践的検討
- ◆研究テーマ：[短期研究] 心理的成長に関わる「選択」の意味について
- ◆主な著作：『ゲシュタルト療法入門 “今、ここ”の心理療法』（共著）金剛出版（2012年）
「通い型Tグループを用いたリーダーシップトレーニングの実践報告」（単著）、人間関係研究、21（2022年）

教授 川浦 佐知子 Sachiko Kawaura

修

[専攻分野：社会学的社会心理学、アイデンティティ研究]

- ◆研究テーマ：[長期研究] アイデンティティの包括的研究
- ◆研究テーマ：[短期研究] 北米先住民の語りにおける集会的記憶の表象と継承
- ◆主な著作：『ナラティブと心理療法』（共著）金剛出版（2008年）、『Tapestry of Memory: Evidence and Testimony in Life-Story Narratives』（共著）Transaction Publishers（2013年）

教授 中村 和彦 Kazuhiko Nakamura

修

[専攻分野：組織開発、ラボラトリー方式の体験学習]

- ◆研究テーマ：[長期研究] 組織開発(OD)に関する研究
- ◆研究テーマ：[短期研究] ラボラトリー方式の体験学習に関する基礎研究
- ◆主な著作：『入門 組織開発ー活き活きと働ける職場をつくる』（単著）光文社（2015年）
『組織開発の探究』（共著）、ダイヤモンド社（2018年）

< 講義担当者 >

教授 藤田 知加子 Chikako Fujita

修

[専攻分野：実験心理学・認知心理学]

- ◆研究テーマ：[長期研究] ヒトの単語認知過程の解明、言語活動を支える知識構造の解明
- ◆研究テーマ：[短期研究] 日本語単語の表記の親近性効果の検討、漢字語の処理特性の検討、発達障害児の認知特性の検討など
- ◆主な著作：『単語表記の親近性が語構成文字の認知に及ぼす影響』（共著）基礎心理学研究、23（2005年）
『通常学級の低学年児童の書字達成度と担任教諭による評定との関連』（共著）小児の精神と神経、51（2011年）

教授 池田 満 Mitsuru Ikeda

修

[専攻分野：コミュニティ心理学]

- ◆研究テーマ：[長期研究] 心理・社会的問題の予防を目指すプログラムの開発と評価に関する理論的、方法的検討
- ◆研究テーマ：[短期研究] 平和構築・紛争予防教育プログラムの評価と実施、運営改善
- ◆主な著作：『エンパワメント評価モデルに基づく教員のバーンアウト予防プログラムー現場と研究者の協働による実践への示唆ー』（単著）、風間書房（2017年）

教授 中野 有美 Yumi Nakano

修

[専攻分野：臨床精神医学、支持的療法、認知行動療法]

- ◆研究テーマ：[長期研究] メンタルヘルスの維持・増進、心理的支援による症状の緩和
- ◆研究テーマ：[短期研究] 学校や職場でのメンタルヘルスの維持・増進に有効な介入法とその効果、医療機関における症状の緩和に有効な介入法とその効果
- ◆主な著作：『こころのスキルアップ教育の理論と実践』（共著）大修館書店（2015年）、
『認知行動療法 再考 マインドフルネス認知療法が重視している“脱中心化”に焦点を当てて』（単著）精神医学第61巻第6号（2019年）

准教授 解良 優基 Masaki Kera

修

[専攻分野：教育心理学]

- ◆研究テーマ：[長期研究] 児童・生徒の学習動機づけの社会化について
- ◆研究テーマ：[短期研究] 価値・コスト葛藤が学習動機づけに及ぼす影響の検討
- ◆主な著作：『親子間における知能観の伝達：父親と母親の知能観の一致に着目して』（単著）パーソナリティ研究、32（2023年）
『ポジティブな課題価値とコストが学習行動に及ぼす影響：交互作用効果に着目して』（共著）教育心理学研究、64（2016年）

准教授 土屋 耕治 Koji Tsuchiya

修

[専攻分野：社会心理学、組織開発、体験学習]

- ◆研究テーマ：[長期研究] 個々人の行動と態度の相互作用により集団現象が構成されるメカニズムの解明
- ◆研究テーマ：[短期研究] 組織開発の事例の心理学的検討、体験学習の思想的系譜の理解
- ◆主な著作：『組織の「時間」への働きかけ：組織開発における組織診断の事例から』（単著）実験社会心理学研究、56（2016年）
『ラーニングピラミッドの誤謬：モデルの変遷と“神話”の終焉へ向けて』（単著）人間関係研究、17（2018年）

言語科学専攻

< 研究指導教員 >

教授 CRIPPS, Anthony

前 後

[専攻分野：English education, teacher training, CALL, and learner autonomy]

- ◆研究テーマ：[長期研究] CALL and learner autonomy
- ◆研究テーマ：[短期研究] Online material and digital textbooks
- ◆主な著作：MAINSTREAM English Communication 1&2（共編）Zoshindo（2012年）、
English Language Education in Japan: Problems and Solutions Createspace（2016年）、
Creating an Online Teacher Support Centre and Beyond Createspace（2019年）

教授 CROKER, Robert

前

[専攻分野：質的データ分析法]

（後 研究指導補助）

- ◆研究テーマ：[長期研究] 比較社会学（多様性、ジェンダー）、質的研究
- ◆研究テーマ：[短期研究] 留学生と現地学生の交流と第二言語習得
- ◆主な著作：『Exchange students creating target language social networks in international dormitories during short-term study abroad sojourns』（共著）『国際教育センター紀要』、第17号（2017年）、
『Dorm life for exchange students: Language desert or language oasis?』（共著）『外国人留学生別科紀要』第1号（2018年）

研究者紹介

前：博士前期課程
後：博士後期課程

教授 今井 隆夫 Takao Imai 前後
[専攻分野：認知言語学と英語教育、言語コミュニケーション論]
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 認知能力を活用した英語学習法の開発
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 日本人英語学習者にみられる間違いを日英語の捉え方の違いと認知言語学の道具立てから説明する。
 ◆主な著作：『イメージで捉える感覚英文法：認知文法を参照した英語学習法』（単著、2010、開拓社）、『実例とイメージで学ぶ 感覚英文法・語法講義』（単著、2019、開拓社）

教授 岩崎 典子 Noriko Iwasaki 前後
[専攻分野：応用言語学(日本語教育、第二言語習得研究)]
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 L2日本語話者の発話をめぐる多角的研究、留学とアイデンティティ形成、日本語使用者の多様性と日本語教育
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 日本語オノマトペの指導
 ◆主な著作：『The Grammar of Japanese Mimetics: Perspectives from Structure, Acquisition and Translation』（共編著、2016、Routledge）、『移動とことば』（共編著、2018、くろしお出版）、『移動とことば2』（共編著、2022、くろしお出版）

教授 森泉 哲 Satoshi Moriizumi 前後
[専攻分野：社会心理学、対人・異文化コミュニケーション]
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 異文化コミュニケーション理論の構築
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 対人コミュニケーション過程の比較文化研究
 ◆主な著作：『改訂版 グローバル社会のコミュニケーション学入門』（共著、2024、ひつじ書房）

教授 上田 崇仁 Takahito Ueda 前後
[専攻分野：日本語教育学、日本語教育史、年少者日本語教育]
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 植民地朝鮮における日本語教育、戦前のラジオ等メディアを利用した日本語教育、日本の旧植民地・占領地域における日本語教育の教材研究
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 外国にルーツを持つ子どもたちに対する日本語指導
 ◆主な著作：『ラジオを利用した植民地朝鮮の「国語」教育』貴志俊彦・川島真・孫安石（編）『戦争 ラジオ 記憶』（2015年）、『日韓末「日語読本」考』『南山大学日本文化学科論集』20（2020年）

准教授 和泉 悠 Yu Izumi 前
[専攻分野：言語哲学、意味論] (後 研究指導補助)
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 自然言語の意味論と語用論
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 名詞表現の意味論、言語使用の倫理的側面
 ◆主な著作：『名前と対象：固有名と裸名詞の意味論』（単著、2016、勁草書房）、「Definite descriptions and the alleged East-West variation in judgments about reference」、*Philosophical Studies*（2018）、『悪い言語哲学入門』（単著、2022、筑摩書房）、「悪口ってなんだろう」（単著、2023、筑摩書房）

< 講義担当者 >

教授 花木 亨 Toru Hanaki 前
[専攻分野：コミュニケーション研究]
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 異文化、政治、メディアとコミュニケーション
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 政治とコミュニケーション
 ◆主な著作：『大統領の演説と現代アメリカ社会』（単著、2015、大学教育出版）

准教授 山口 薫 Kaoru Yamaguchi 前
[専攻分野：日本語教育学]
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 日本語教授法
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 学習者の認知能力に働きかける日本語教育
 ◆主な著作：『現実に回帰した比喩表現とその共起表現について』『アカデミア』文学・語学編 第117号(2025年)、『認知言語学の理論を活かした日本語の授業』『アカデミア』文学・語学編 第115号(2024年)

教授 稲垣 和也 Kazuya Inagaki 前
[専攻分野：言語学] (後 研究指導補助)
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 オーストロネシア諸語の記述言語学的研究
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 ドホイ語の方言記述、インドネシア語における文法化
 ◆主な著作：“Word stress in Pontianak Malay”, NUSA(2019年)、“Bound pronominals in West Barito languages”, NUSA (2024年)

教授 初山 洋介 Yosuke Momiyama 前後
[専攻分野：日本語学(意味論)、認知言語学]
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 言語表現(特に、語)の「意味」とは何か
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 百科事典の意味の体系化
 ◆主な著作：『【例解】日本語の多義語研究—認知言語学の視点から』（単著、2021、大修館書店）、『実例で学ぶ認知意味論』（単著、2020、研究社）、『多義動詞分析の新展開と日本語教育への応用』（共編著、2019、開拓社）、『日本語は人間をどう見ているか』（単著、2006、研究社）

教授 鈴木 達也 Tatsuya Suzuki 前後
[専攻分野：英語学、言語学]
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 生成文法による英語統語論研究
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 英語名詞句の構造、英語動名詞の構造、統語連鎖、WH移動の統語分析、軽動詞の分析
 ◆主な著作：“On genitive subjects in English,” 宮本陽一他編 *Deep Insights, Broad Perspectives: Essays in Honor of Mamoru Saito*(2013、開拓社)、「英語縮約関係節の構造について」(2018、『中部英文学』第37号)、「英語縮約関係節」における制約について」島越郎他編『ことばの様相—現在と未来をつなぐ—』(2022、開拓社)

准教授 平子 達也 Tatsuya Hirako 前
[専攻分野：言語学] (後 研究指導補助)
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 日本語諸方言の歴史比較言語学的研究
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 日本語諸方言の記述言語学的研究
 ◆主な著作：『日本語・琉球諸語による歴史比較言語学』（共著、2024年、岩波書店）、「出雲に多方言における母音をめぐる音変化」『言語研究』165号(2024年)、“Chapter 8 Izumo (Shimane, Western Japanese),” In: Shimoji, Michinori ed. *An Introduction to the Japonic Languages: Grammatical Sketches of Japanese Dialects and Ryukyuan Languages* (2022年、Brill)

准教授 勝 慎将 Norimasa Katsu 前
[専攻分野：言語学、生成文法] (後 研究指導補助)
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 生成文法理論研究
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 日英語の比較統語論
 ◆主な著作：『ミニマリストプログラム 30年の足跡』（単著、2025、開拓社）、『極小主義における説明理論の挑戦：最適最小性が導く併合とコピー演算』（共著、2024、開拓社）、*Labels at the Interfaces: On the Notions and the Consequences of Merge and Contain*（単著、2022、九州大学出版会）、「Labeling without Weak Heads”, *Syntax* 23(2020)

教授 RYAN, Anthony 前
[専攻分野：Discourse analysis, English education, Initial Teacher Education]
 ◆研究テーマ：〔長期研究〕 Spoken discourse analysis; Comparing Initial Teacher Education (ITE) practicum across education systems.
 ◆研究テーマ：〔短期研究〕 Conversational discourse; student-teacher practicum and self-efficacy; English lesson studies.
 ◆主な著作：“CLIL uncovered: Origins, theory and the basics of planning.” 『*CLIL in Diverse Contexts: 次期学習指導要領とCLILを活用した英語の授業づくり*』（共著、2020、鳴海出版） “Lessons from Hong Kong English Education: HOTS-Integrated language learning” (2019、『外国語研究』第52号)

南山宗教文化研究所

宗教や文化の研究を通じて対話と相互理解を進める活動を展開

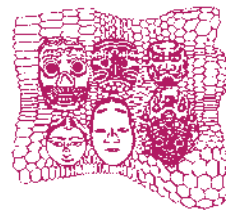
世界の宗教と文化一般に関する学際的な研究、特に日本を中心とした東洋の宗教と文化に関する研究と、キリスト教・仏教・神道などの諸宗教や現代文化一般との対話と相互理解を促進する活動を行っています。その一環として、日本の宗教に関する学術書や学術雑誌『Japanese Journal of Religious Studies』を編集・刊行し、研究プロジェクトごとに、様々な懇話会、研究会、国際シンポジウムを開催するほか、海外の大学院生との「日本宗教研究・南山セミナー」などを開催しています。



人類学研究所

75年の歴史を誇る人類学研究所

人類学研究所は神言会員で20世紀前半の人類学の巨匠、W. シュミット博士の系譜を継承すべく、1949年9月に設立され、2024年に75周年を迎えました。人類の長期的で総合的な理解に向かって文化人類学と考古学の積極的な融合を図る研究活動を行っています。グローバルな視野で現在人類が直面している諸問題を根本的に検討するという目的の下、対象地域も、従来のアジアからアフリカ、オセアニア、アメリカ大陸まで拡大しました。その成果は『年報人類学研究』や『人類学研究所研究論集』によって公開されているほか、『Asian Ethnology』を編集・刊行しています。また、年に数回、大学内外の人類学者による公開シンポジウムや公開講演会を通して社会に還元されています。



人類学博物館

全ての人の好奇心のための博物館

人類学博物館は「全ての人の好奇心のために」のスローガンの下、ほとんど全ての展示資料に触ることができる博物館です。触ることで博物館が誇る学術資料の魅力を知ってほしいのです。博物館の常設展では、「信仰と研究」「南山大学の人類学・考古学研究」「南山に託す」「昭和のカタログ」という4つのテーマを設けています。

「信仰と研究」では、神言修道会のマリンガー神父、グロート神父、そしてアウフェンアンガー神父らが収集してきた、ヨーロッパの旧石器、日本の縄文土器、そしてパプアニューギニアの民族誌資料などが展示されています。

「南山大学の人類学・考古学研究」のコーナーでは、大学が行った発掘調査、人類学調査の結果として収集された考古資料（東浦町入海貝塚、名古屋高蔵遺跡、同市瑞穂遺跡）、民族誌資料（パプアニューギニア高山地帯）があります。

「南山に託す」は、人類学博物館に寄贈された資料で、人類学者・西江雅之氏のコレクションや、上智大学の調査団によるタイ北部山地民（ユーミエン族、モン族など）の民族誌資料などです。

そして「昭和のカタログ」では、昭和時代の家電製品を中心に展示しています。



社会倫理研究所

現代社会の諸問題について理論的・対話的・実践的に研究する

1980年5月の研究所創設以来、持続可能性などの環境問題、紛争や貧困などの地球規模の問題、そして、生命倫理や生き辛さの問題など、複雑に絡み合った現代の諸問題について、人文社会科学諸分野の叡智を結集して総合的かつ包括的に研究し、「人間の尊厳」の内実を探索することを主たる活動としてきました。研究者と実務者を含む探求プラットフォームを構築して社会倫理の諸問題を研究するとともに、社会的関心の喚起と学術的知見の普及を目指して学術誌の刊行、学術イベントの開催、研究資料の収集・整理を行っています。



社会倫理研究所主催トークラボ
(2024年9月19日開催)

言語学研究センター

アジアの拠点として、理論言語学研究を推進

本学の言語学研究の伝統を背景に、アジアにおける研究拠点として2003年4月に設立されました。比較統語論と言語獲得論を中心に、アジア、アメリカ、ヨーロッパの言語学者と国際共同研究プロジェクトを展開し、また、国内外から研究者を招聘して、ワークショップやコロキウムを開催しています。学内外の研究員、そして大学院生の研究活動をサポートする一方で、ウェブサイトと機関誌『Nanzan Linguistics』を通して、南山そしてアジアの言語学研究を世界に発信しています。

2008年から2013年度には、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（研究拠点を形成する研究）」として、大規模研究プロジェクト「言語比較に基づく統語理論の国際共同研究」を、台湾・国立清華大学、インド・EFL大学、アメリカ・コネチカット大学、イギリス・ケンブリッジ大学、イタリア・シエナ大学と共に遂行しました。現在も共同研究を継続して行っており、研究成果を論文集や専門誌の特別号として公開しています。



人間関係研究センター

多様なあり方を尊重する、人間性豊かな社会を創り出すために

南山大学人間関係研究センターは、広く学際的視野に立った人間関係研究を行い、その成果を積極的に公表するとともに、公開講座などの実践を通して、人間性豊かな社会の実現に貢献することを目的としています。

センター員がそれぞれのフィールドを通して取り組む研究の成果は、研究紀要『人間関係研究』を通して公開されています。これらの研究は、従来型の客観的分析的研究にとどまらず、対人関係力・組織・人間性・社会など、幅広い分野における実践的研究の豊富さが特色です。

公開講座では、誰もが人間関係を実践的に学ぶことができる場を提供しています。南山で伝統的に取り組んできた「ラボラトリー方式の体験学習」という学習方法を通して、人間関係への学びを深めていくことのできる講座群を展開するとともに、スタッフの専門性と特色を生かした講座も開催しています。これらの講座には、日本全国から多くの方がご参加くださり、2025年度現在の修了者は延べ約9,900名にのぼっています。

この他にも、公開講演会の開催、メールマガジンの発信、受託事業などを通じて、一人一人の存在を大切にし、誰もが自分らしく生きられる人間性豊かな社会の実現に向けて取り組んでいます。





南山大学大学院博士後期課程奨学支援制度

博士後期課程に在学する学生を対象に、授業料等を減免し、博士の学位取得を支援することを目的とした「南山大学大学院博士後期課程奨学支援制度」があります。資格審査その他の詳細は、入試要項(※)をご確認ください。

<制度の概要>

支援内容	授業料および施設設備費の半額を減免する
支援期間	1年間 *ただし、同様の手続きを行うことにより、翌年も引き続き支援を受けることが可能(年度毎に審査有)

アクセスマップ

※入試要項はこちら▶

- 地下鉄名城線「八事日赤」駅より徒歩約8分
- 地下鉄鶴舞線「いりなか」駅1番出口より徒歩約15分



南山大学

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
<https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/>

入試に関する問い合わせ先

入学センター

Phone(052)832-3119 Email ml-grad@nanzan-u.ac.jp

履修内容等に関する問い合わせ先

人間文化研究科事務室

Phone(052)832-4326